町史編さん室　☎52 3812　有線5 2830　FAX52 3850
E-mail　chousi@town.shiga-hino.lg.jp

歴史は未来の羅針盤

温故知新

『近江日野の歴史』第二巻「中世編」は、第一章「鎌倉・室町時代の日野」、第二章「日野の中世社会と文化」、第三章「戦国時代の日野」、第四章「信長・秀吉時代の日野」からなります。役場・公民館等にて一冊四、〇〇〇円で好評発売中です。

今回は、『近江日野の歴史』第二巻「中世編」の巻末に収録されている「蒲生氏関係史料」と、付録CD－ROMの内容について紹介します。

日野の中世と蒲生氏

「中世」という時代は、教科書などをみてみると、鎌倉時代から戦国時代までの時期を指すと考えられています。しかし、『近江日野の歴史』第二巻「中世編」では、平安時代の末から、戦国の世を終わらせた信長・秀吉・家康の時代までの長きにわたる時代を対象としています。

本書が一般的な中世という時代の枠組みよりも広い時代を記述の対象としたのは、室町幕府・守護大名六角氏・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康のもとで活躍した蒲生氏の足跡、および蒲生氏を育んだ故郷日野の歴史・文化を浮き彫りにするためであり、既成の時代の枠組みにとらわれずに、歴史をふり返る必要があったからです。

そのため、本書では近江日野時代の蒲生氏の歴史だけではなく、伊勢松坂・会津若松・下野宇都宮・伊予松山各時代の蒲生氏と日野の歴史が一冊の本で見通せるようにしました。

蒲生氏関係史料

このような方針をもとに編集された「中世編」をより深く理解いただくために収録したのが、巻末の蒲生氏関係史料です。ここでは、蒲生氏が歴史の表舞台へ登場する南北朝時代から、伊勢へ転封を命じられる天正12（1584）年までの史料のうち、主要なもの全90点が収められています。

各史料の冒頭には、史料の概要をまとめた「綱文」を掲げ、続いて史料名・出典、最後に史料本文を掲載しています。

史料本文は、本来漢文体や漢字の音訓を利用した表現がとられるなど、解読には専門的な知識が必要ですが、ここでは現代の私たちにもわかりやすい形の文章表現である「読み下し文」としました。

その内容は多岐にわたっており、興敬寺〈西大路〉・信楽院〈村井〉・比都佐神社〈十禅師〉・馬見岡綿向神社〈村井〉など町内の寺社に伝えられた古文書をはじめ、京都の寺社に伝えられた古文書、公家の日記などの記録類、戦国大名家の古文書などのなかから、蒲生氏の動向をうかがい知ることのできる史料を厳選して掲載しています。

充実の付録CD－ROM

付録CD－ROMは、「史料でたどる蒲生氏の歴史」と「写真でみる日野の中世」の二つの項目に分かれています。

「史料でたどる蒲生氏の歴史」では、本文巻末に収録した蒲生氏関係史料に加え、蒲生氏伊勢転封後から寛永11（1634）年の蒲生氏断絶までの史料90点を新たに収録しています。史料を手がかりにより深く歴史に関心を持っていただけるように配慮しました。

一方、「写真でみる日野の中世」では、中世ゆかりの神社・寺院、城跡、町並み、碑文など58項目のカラー写真を地区別に収録し、合わせてわかりやすい解説を添えました。また、各項目の位置が表示されるといった工夫もしてあります。日野の中世の世界をお楽しみください。

▲CD「写真でみる日野の中世」の日野地区の選択画